

東京まゆみ会会報

第31号 (令和元年8月)



まゆみの精神

強靱であれ その木の如く
しなやかであれ その枝の如く
清楚であれ その花の如く
誠実であれ その朱き実の如く

東京まゆみ会

目次

デジタル化社会に思う

「安達太良山」のふもとで

ご挨拶

野鳥の写真を撮って30年

お宝の思い出

68歳になって始めたこと

「安達高校を卒業して50年と故郷の自慢話し」

一石二鳥

思えば遠くに来たもんだない！

念願の「ホノルルマラソン」に参加

よみがえった浪曲 語り芸のパワー

安達高校創立100周年記念事業について

60年をふりかえって

令和元年度東京まゆみ会総会のご案内

平成30年度年会費納入者ご氏名

現在の役員体制

東京まゆみ会からのお願い

編集後記

東京まゆみ会会長 安藤勇夫

安達高等学校同窓会会長 阿部重二

安達高等学校校長 中野隆幸

会員 諏訪親太郎(昭32)

会員 嶋原秀夫(昭38)

会員 最上茂(昭35)

会員 阿部伊勢吉(昭45)

会員 早川ミツ(昭37)

会員 渡辺博彦(昭41)

会員 大内正造(昭48)

会員 七森栄子(昭38)

安達高等学校同窓会本部

会員 澤井信明(昭34)

東京まゆみ会 事務局

東京まゆみ会 事務局

東京まゆみ会 事務局

東京まゆみ会 事務局

東京まゆみ会 会報編集委員会

【表紙の写真】

東京まゆみ会創立70周年記念総会

安達高等学校校歌斉唱



デジタル化社会に思う

東京まゆみ会会長

安藤 勇夫 (昭34卒)

5月より元号が改まり令和の時代になりましたが、5月1日の朝刊を開くと、IT(情報技術)やAI(人工知能)、そして、日常身近なデジタル通帳、デジタル教科書、オンライン診療など、いわゆるデジタル用語のオンパレードで、新時代におけるデジタル化社会の一層の進展が謳われています。

私は、1959年の春に安達高校を卒業し、大学は工学部に進学しましたが、当時日本では、まだエレクトロニクス産業は花形産業まで成長しておらず、ましてやその後のデジタル化社会の現出など思い及びませんでしたので、「機械工学」を専攻し、1963年春、モーターゼーションのトレンドに乗って自動車会社の開発部門に就職しました。しかし、その後の電子技術、デジタル技術の進歩は目覚ましく、やがて、自動車の分野でも電子制御技術が採用され出し、今や、話題の「自動運転」でも、センサーやネットワーク関係技術が必須要件となっています。ここで少し「デジタル化の歴史」に触れますが、ネット検索によりまずと、以下のように記されています。

【1960年代】業務用コンピュータの普及に伴い、大規模な計算業務のデジタル化が始まる。

【1970年代】日常の定型的な事務業務や、製造現場での繰返し作業などがコンピュータによって処理される時代に。

【1980年代】パソコンの普及と企業内ネットワークの構築

が相まって、個人や部門を超えて業務の流れがコンピュータに取り込まれ、処理されるようになる。

【1990年代】パソコンは1人1台の時代を迎え、Eメールが使われ出し、さらにインターネットが整備されて、協働作業のデジタル化やネットショッピングの利用が広がる。

【2000年代】フェイスブックなどソーシャルメディアが登場し、また、スマートフォンが爆発的に普及して、何時でも何処でもネットに繋がる時代に。

そしてこれからは、ビッグデータ、AI、(すべてのモノがインターネットにつながる)IoTの時代だということです。話を身近なところに戻しますが、会の運営においてもデジタル化の恩恵は便利性・効率性の面で列挙することができます。

会員名簿はデジタル情報として役員間で共有管理され、総会関係の書類や役員会資料の作成なども、パソコンとプリンターの普及が大いに手助けになっています。会報の作成は、原稿の授受にEメールを使いますし、写真のはめ込みなどの編集作業も、最早パソコンなしには不可能です。

今、日本の社会ではデジタル人材の不足が問題となつていますが、それほど大げさな話ではなくても、当会の活動においても、前述のような会業務のデジタル化の実態を考えますと、やはりデジタル文化に強い若い役員の増強が不可欠といえます。

デジタル化社会の発展は、膨大なデータを扱い、スピード、生産性、便利性の高い社会を生み出しますが、一方でデジタル文化と人間性のバランスが失われやすい時代とも指摘されています。こうした時代にあつて、同窓会、ふるさと会、コミュニティなどを通じての人と人との触れ合いが、少しでも人の心に潤いをもたらす潤滑剤になればと願っております。



「安達太良山」のふもとで

安達高等学校同窓会会長

阿部 重二

「東京まゆみ会」の皆様、お元気にお励みと存じます。「故郷は遠きにありて思うもの」にて、皆様のご活躍に心よりお喜び申し上げます。

皆様が二本松から東京へ発ったのは「いつの日」だったでしょうか。もう、50年も前ででしょうか。

東京の生活の苦楽を重ね「住めば都」でしょうか。田舎者の当方には図りきれません。

安達高校で学んだ思いはいかがでしたか。ふと我に返るときもありましょう。

私たちの母校安達高校は、大正12年の創立ですが、昨年は戊辰戦争より150年の節目で、二本松市の歴史に興味を抱きました。

母校の創立当時、二本松には「安達郡役所」があり、先端都市といふべき土地柄で、初代校長先生は岩手県から赴任され、意気込みは甚だ強いものがあつたと、先輩同窓生の思い出の歴史に記載されております。

自分の知らなさも含めて、勉強のつもりで、母校の創生期について、書かせていただきます。

初代神野浅次郎校長は、大正12年4月から昭和2年6月まで在任致しました。学校の場所は現在の二本松北小学校の所で、

100名で入学式を行っています。

その時入学された生徒さん達は、新校舎開設に向けての奉仕作業の努力がございました。安達郡内で一番早い中学校創立というところで、新土地郭内は荒地、校庭は草ぼうぼうで、校庭作りが教科の一部に組み込まれておりました。連日午後、お城山下の石炭カスを人力で運び整地をしました。

また、当時は交通の便が悪く、通学不可能者は現在での寮生活を実施し、寮生は60名ほどおり、終日多種にわたり学んだと記されております。

神野校長先生は、広島で学んだとお聞きします。

「教育とは、身をもって体験しなければいけない」と、学校整備に自ら率先し、生徒とともに汗を流し、安達魂を植え付けられました。

校長先生の目標に、英国イートンハイスクール(当方には計り知れませんが、多分有名校でしょうか)の学風を取り入れ、まず、第一に、服装は紺ヘルの洋服に、足はゲートルを着用させて身なりをきちんとさせ、登校することになりました。

生徒は学校の方針を素直に受け入れ、また、自然発生的に自治会などを作り、校舎内外の整理、整頓、整備にあたり、まさに、ここに「まゆみの精神」が築かれたと思います。

自らの校風を立派に作り上げようとする心意気に、私は深い感謝の念を感じます。

草創期における生徒さん達の純真さ、学校、校長先生の一心専心の気持ちが多く感じられます。

大正から昭和20年までの政治、生活は、富国強兵時代が描かれております。生徒出陣のこと、生徒さんは労力を注がされました。みんな、精一杯でした。

ここに、本校大先輩でノーベル賞候補と言われた高橋信次博士の生き方を、名古屋大学資料より紹介させていただきます。高橋信次博士は、母校入学は昭和2年第2期生でした。授業では、植物相手の自然科学に興味を抱いていました。昭和4年3月に卒業され、その後、仙台の旧制二高、東北帝国大学医学部を卒業し、同大学医療の助手になり、この頃がX線医学研究生の第一歩でした。

昭和19年の戦時中、多忙のあまり体調不良で自宅療養中に、体内の内景をX線で描出し、病理解剖診断しようとする「回転横断撮影法」のひらめきを覚えたと後日述べています。

その後、岩手大学、名古屋大学において、実験、その原理を追求し、現在のMRIの前身を形成させました。1979年、英国人ハンスフィールド氏がノーベル賞を受賞されましたが、氏の研究の中に高橋信次博士の研究の一部が残されていることを、後日の報告書に述べられているとのことでした。

高橋博士は、昭和47年、「生体のX線による解剖」で日本医師会医学賞、米国放射線医学会名誉会長賞を受賞するなど、国際的に活躍されました。役歴は紹介しきれないほどです。

活動中、母校や二本松市において講演会が催されており、演題は「苔むす城下のふもと」「美しきふるさと」で、二本松への思いが深く感じられました。

高橋信次博士は、医学界の先頭を走りきった方です。残念ながら、昭和60年4月2日に逝去されましたが、速報にて全国に報道されたと言われております。

その年の7月、スウェーデン王立科学アカデミーよりゴールドメダルが授与されました。

母校は、歴史を重ね、卒業生は3万余名です。卒業生は全国そして海外へと活躍の場を展開しております。母校創立96年、輝かしい名誉の100年にあと4年です。重き100年に、皆様の絶大なるご協力、ご支援を、宜しくお願い申し上げます。

前年度卒業生187名は、元気に社会に飛び立ちました。

「まゆみの精神」が満ちあふれております。

高橋信次博士は、「学習や研究には、原野を開拓するパイオニア精神が肝心。」と述べております。

安達太良山ときれいな里が、今日も私たちを見守っています。東京の皆さんの今後の益々のご活躍を祈念して一投稿とさせていただきます。



母校校庭の高橋信次博士胸像



ご挨拶

福島県立安達高等学校校長

中野 隆幸

東京まゆみ会の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校教育発展のために御理解と御支援を賜り心より感謝申し上げます。昨年10月には東京まゆみ会総会に出席し、多くの同窓生の皆様と懇談する機会がありました。皆様の高校時代の思い出、後輩への期待等、お一人お一人の母校へ寄せる思いを伺い、母校を預かるものとしてたくさんの力をいただきました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

私は英語教師として県内の高校に勤務してきましたが、母校の教壇に立つ機会は無く、昨年度の本校赴任は大学4年次の教育実習以来34年ぶりの母校となりました。生徒達が授業を受ける様子や部活動に励む姿を見るたびに、自分の高校時代の思い出が蘇ってくる1年でした。

さて、本校は平成31年度学校経営・運営ビジョンの中で、1 進路希望の実現に努め、生徒・保護者・地域社会の期待に応える。2 基本的な生活習慣の確立、事故やいじめの防止に努める。3 ユネスコスクールとしてのESD活動・特別活動・部活動等を充実させ、学校活性化の力とする。4 自己研鑽に努め、指導力の向上を図る。(教職員) 5 開かれた学校づくりを推進し、地域との連携を深める。以上5つの努力目標を掲げました。これらに加えて、創立100周年へ向けての本校の針路を、

『まゆみの精神』の継承とユネスコスクールとして発展」と掲げ、その重点目標を、1 文武両道の実践 2 ESD 活動の充実・発展 3 まゆみの精神の継承 と設定し、教職員一丸となり毎日の教育活動に取り組んでおります。

今年度は入学式で新入生171名を迎え、全校生徒数528名でのスタートとなりました。4月16日の創立記念日を前に全校集会において、生徒達へ創立96周年となる本校の創設当時のこと、多くの卒業生が国内外で御活躍されていること、「まゆみの精神」の由来等について話をし、達高生であることに誇りを持ち、充実した高校生活を送るよう激励しました。

平成30年度の卒業生183名の進路状況と部活動についてお知らせします。進路先は四年制大学75名(国公立大学11名、私立大学64名)、短期大学26名(公立1名、私立25名)、専門学校63名(看護・医療23名、その他40名)、就職17名、公務員2名という結果でした。部活動では、カヌー部が全国インターハイと国体に出場し、少年男子スプリント・カヤックシングル500mで1年の青木君が両大会共に第3位。剣道部3年の金澤さんが全国インターハイ女子個人戦に出場し活躍しました。

本校生徒達は諸先輩が長年に渡って築き上げてこられた歴史と伝統をしっかりと引き継ぎながら、創立100周年へ向けて「まゆみの精神」のもと、日々勉学に、また部活動に一生懸命に取り組んでおります。

今年度は3年に1度の大文化祭が9月21日(仮装パレード)、22日(一般公開)に開催されます。福島にお帰りの際には、是非母校へお立ち寄りください。

東京まゆみ会の皆様には、今後とも変わらぬ御指導御支援を賜りますようお願い申し上げます。

野鳥の写真を撮って 30 年

諏訪 親太郎 (昭 32 卒)



シャッターチャンスに備える筆者

経験は長いがさっぱり上達しないもどかしさの昨今です。

素人写真の良し悪しは、所詮は自己評価、プロの眼も時には必要でも、趣味の枠を超えてしまい窮屈、自分流勝手気儘に遊ぶことをモットーにしています。

何で野鳥なのか・・・その生態の面白さにあります。

縄張りの主張、戦い、餌捕り、求愛、子育て、そして巣立ち。

毎年繰り返し返されそれを狙います。

珍鳥が時折やってきて興味をつないでくれます。

スズメのような留鳥、南方からやって来る夏鳥、大陸から飛来する冬鳥などと共に、滅多に出会うことのない珍しい鳥がやって来ることもあります。



縄張り争い

カワセミを撮り始めて 20 年、別名を翡翠、翼は青緑色、腹は橙色、背は瑠璃色、惹きつけられるのはその美しさ。



餌を目掛けて

カワセミはかつてはなかなかお目にかかれない貴重な野鳥でしたが、今は自然環境が良くなったこともあって、餌となる小魚などが生息している小川や公園の池などでは良く見られるようになりました。

撮っていて飽きない面白さがカワセミにはあります。

身近にいていつでもどこでも撮れるという容易さ、最近ではスマホのカメラ機能が格段に進

歩して、簡単に撮っている人もいます。

私にとって、カワセミなど野鳥撮りに終わりはありません。但し加齢によって身体が動かなくなるまで。



カワセミの採餌



お宝の思い出

鳴原 秀夫 (昭38卒)

「平成」から「令和」になり、前の天皇・皇后両陛下は上皇・上皇后さまになられました。お二人が常に国民に思いを寄せられるお姿に、私たち国民は敬愛し、ありがたく思っております。

高校時代、私は幸運にも当時の天皇・皇后両陛下と皇太子・美智子妃殿下にお目にかかる機会がありました。

昭和30年代に入ると景気が上向き、面白い話題が多くなりました。何といっても国中が湧いたのは昭和34年4月の皇太子さまのご成婚です。戦後最高最大の慶事で、ミッチーブームが起き皇室が身近になりました。そんな時代の思い出です。

翌昭和35年4月、私は安達高校に入学しました。入学して間もなく、天皇（昭和）皇后両陛下の帰京されるお召し列車が二本松駅に停車するので、お出迎え要員を各クラス1名選びなさい、というお達しがありました。くじ引きの結果、幸運にも私が当たりくじを引き当てました。

駅の下りホームには大勢のお出迎えの人が並び、私は改札を入って右（上野寄り）のあたりに立ちました。やがて列車は上り線ホームに入ってきてゆっくり静かに停車します。何と菊のご紋の車両が正面に。お立ちになった陛下が帽子を振っておられます。皇后さまも満面の笑み。雲の上の遠い存在の両陛下が線路一つ挟んだ間近におられます。信じられない光景でした。

当時は安保闘争の真ただ中で、まだ天皇の戦争責任論がく

すぶっていた時代です。私も若気の至りで天皇制に疑問を持っていました。神武天皇以来の皇統の歴史とその重みなど、15歳の少年に到底理解できるはずがありません。

周りの人たちは万歳三唱をしていたようですが、私は目の前の現実には、ただ呆然と立ち尽くしたままでした。

その日、クラスのT君から「てんちゃん」という有難いあだ名をいただきました。

そして翌年の春、今度は皇太子ご夫妻です。神さまの粋なお計らいで当たりくじは再び私が手にしました。2年連続の快挙です。クラス仲間の羨望は半端ではありませんでした。

今度は上り線ホームのかなり上野寄りに立ちました。やがてご夫妻の乗られた急行列車が入ってきました。どの車両にお乗りなのかはわかりません。ドキドキしながら列車が停車するのを待ちます。すると停止した車両の目の前の窓が上げられ、そこに皇太子さまと美智子さまが笑顔で手を振られているではありませんか。距離にしてわずか1メートル程。お二人と目が合い、全身が震えました。

皇太子さまは日焼けされたお健やかなお顔。笑顔で私たちに手を振っておられるお姿にこの上ない親しみを感じました。

そして美智子さま。世の中にこんなに美しい方がおられるのかと驚き、ただただ見つめるばかりでした。前年4月に浩宮さま（今上天皇）のお母さまになられ、慈愛と優しさに満ちあふれていました。慈母観音さまに会ったような幸せな気分になりました。以来、私の理想の女性は美智子さまです。

昔の記憶の殆どは忘却の彼方ですが、この思い出だけは、総天然色の色あせることのない永久保存版です。

お二人がいつまでもお元気でありますよう祈っております。



68歳になって始めたこと

最上 茂 (昭35卒)

町会の役員会の後の雑談で、隣の人と趣味のことで話し合ったのが始まりでした。彼は私より3歳年上で、若い頃から山登りをし、風景や植物の花等をカメラに収めるのが趣味で、次の機会に同行させて貰ったのが始まりで今日まで続いております。最初に登った山は奥武蔵の伊豆ヶ岳です。また単に山登りを

するだけでなく、干支の山(辰年なら辰・龍の付く山、午年なら馬・駒の付く山)、それと西暦の年号と山の標高が同じ山等、趣向を凝らして山行きの計画を立てて行っていますが、丁度合致する山があってもかなり遠方だったりして、実現は難しいです。ただ、西暦2017年は、東京で一番高い山が雲取山で、標高が2017mなので、それは実行しました。



雲取山登山口 一番右が筆者

一、八甲田山 (平成24年秋)
 登り始めは曇りの天気、昼前からポツリポツリときて、八甲田大岳に到着した時には、雨と強風で嵐が変わってしまい、

その日宿泊する仙人小屋(無人)へ急行しました。翌日は毛無岱の雄大な草紅葉を鑑賞するつもりが、昨日からの大雨が止まず、毛無岱を諦め酸ヶ湯温泉へ下山・・・残念。

二、岩木山 (平成24年秋)

八甲田山の期待が外れたので、次に向かったのは岩木山です。岩木山神社より登り、八合目に着いた時、ゴロゴロと大きな音と共に雷雨に見舞われました。ここには焼山避難小屋があり、1時間くらい待つと雨は止みましたが、帰りの時間を考えると登頂は無理と判断し、後ろ髪引かれる思いで下山・・・残念。

三、安達太良山 (平成30年秋)

紅葉で有名な山なので、仲間を誘って「くろがね小屋で1泊のコースを」と小屋に電話を入れたところ、小屋を建て替えるとのこと。建て替える前にと買った(?)人たちが多く、満室とのこと、岳温泉のホテルに宿泊。翌日ホテルを出た時には曇りだった空が、ロープウェイ乗り場あたりから小雨になり、薬師岳からの眺望を楽しみにして登ったのに視界はゼロ。それでも山頂までは登ったが何も見えず、また風も強かったのでタッチ&ゴーで下山・・・残念。
 これからも、仲間と体力に応じた登山をしたいと思っています。



雨の安達太良山 筆者：右から2人



「安達高校を卒業して50年と 故郷の自慢話し」

阿部 伊勢吉 (S 45 卒)

安達高等学校同窓の皆様へ

私は1970年(昭和45年)3月に安達高等学校を卒業して早や50年目を迎えようとしています。50年は人生100年の折り返しの節にかかりますが高校卒業と同時に故郷を離れ、歳を重ねるごとに肉親も少なくなり故郷が懐かしく思われる今日この頃です。

さて、67歳を迎えた私の現況についてご紹介させて頂きます。仕事の面では昨年会報に掲載していただいた後輩の二階堂充さんと同じパーソルグループ会社のパーソルキャリアコンサルティング社で国家資格のキャリアアカウンセラーとして各企業様のシニア社員が組織の中で活躍できるようアドバイスなど支援をしております。

一方、個人的なボランティア活動では「安達高校同窓生のための東京まゆみ会」と「地元二本松に縁のある方々のための東京二本松会」で役員としてお手伝いをさせて頂いております。この中で東京まゆみ会は安藤会長の下で会員増強に取り組みさせて頂いており、昭和40年代及び50年代卒業生は言うまでも無く、喜ばしいことに平成年代の卒業生も新たに会員に加わって頂けるようになって来ました。

さて、50年近くも故郷を離れていますと地元では気づかないと思われることも誇りに思うことができます。

1

前会長の安齋先輩が昨年の会報に記載くださった「朝河貫一博士」のお父さんは、旧姓は宗形昌武で、後に朝河家の婿養子となり朝河正澄と名を変えました。戊辰戦争時には二本松藩の砲術隊司令として活躍された御仁です。明治に入ってから二本松市の北部に隣接している飯野町立子山小学校で校長を長く勤め、米国エール大学の教授を勤めていた息子の貫一博士に文武両道で大きな影響を与えたと聞かれています。

2

昨年10月から今年の3月末まで、NHKの朝のTVで放映されていた「まんぷく」は高い視聴率を保ちました。このTVドラマは、皆様もご存知のように、日清食品のチキンラーメン誕生までを参考にしている物語です。日清食品の創業者である安藤百福と奥様の安藤仁子の奮闘を参考にしています。

私が証券会社で大阪支店勤務時には日清食品の大阪本社に出入りしていましたが、日清食品創業者は、東京まゆみ会の安藤会長の親戚にあたります。二本松神社宮司の流れを組む安藤仁子様を娶って名字を安藤姓に変えたことを知ったのは、このTV放映がきっかけです。よって、今日も二本松神社の境内に日清食品のカップラーメンが山積み奉納されているのは、奥方の出身由来からです。

このように故郷を長きに渡って離れている中で安達高校同窓の東京まゆみ会と東京二本松会に接していますと、今まで気づかなかった新たな発見と仲間と供に楽しいシニア人生を送ることにもなっています。

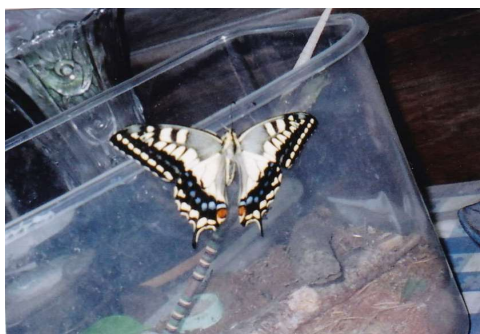
末筆ながら「東京まゆみ会」の益々のご清栄をお祈り申し上げます。



アゲハチョウのサナギ



少しずつ羽を広げ・・・



大空へと飛翔のときです

私が蝶を育てるきっかけとなったのは、60代の頃、近所に木目込み人形の先生が居られ、習いに行っていた時、先生の家の庭に色々な植物が有り、植物を食い荒らす蝶の幼虫を駆除していました。私は、蝶の飛ばない世の中は子供たちが可哀そうと思ひ、幼虫を集め、育てることにしました。

多い時は、20匹を物置で育て、ミカンの枝を近所から頂き、また、パセリを束で置くと群がって食べます。パセリに付く幼虫は、美しいアゲハです。2週間位で食べるのを止め、サナギになり、それから10日位で、朝の6時頃から、背中が割れ、少



一

 二

 (一石二鳥)

早川 ミツ (昭37卒)

しずつ羽を広げ、1時間位で蝶になり、物置の戸を開け放して置くと、飛び立ち、家の上空を一周して飛んで行きます。

また、見慣れない幼虫を育てていると、小指位の太さになり、角が出ていて、蛾でびっくり。

5年前にミカンの木を植えたら、ミカンが20個採れました。甘いミカンで、孫も大喜び・・・『一石二鳥』ですね！

今年、ガレージの水溜りにしじみ蝶が水を飲んでいて、私が近づくと、コロリと横たわり死んだふり。私が離れると、また水飲み、近づくとコロリ。目がクリクリと可愛い！

私の所は住宅街なので、もん白蝶が飛ばないので、農家の方にキャベツを頂いて植えたら、もん白蝶が飛んでいました。

嬉しいですね！ 私の成果？ですが！

アゲハ蝶のことは昔のことなので、羽化する時間等うる覚えなので悪しからず。

思えば遠くに来たもんだない！

渡辺博彦（昭41卒）

達高在学中、高校時代の思い出は、さておき、卒業後の波乱万丈？について、思い付くまま記させて頂きます。

戦後最大のベビーブームの一員であった私達は、昭和41年に達高を卒業しました。同年東洋大法学部法律学科入学し、45年卒業と同時に社会人として歩むことになるのですが？採用試験失敗談です。

朝日新聞社一次合格、二次面接時、緊張感のあまりトイレで大を処理し、ドアを開け、足で水洗コックを押しているところを面接官が見ていたようで、不合格になりました。実は水洗トイレは、初めてで、手で押すことを知りませんでした（笑い）。いまだに、忘れられません。

そこで、編集者募集に釣られて、東陽印刷所に採用され入社。工務部に配属、1年後営業部へ異動。ヤマハ・ヤクルト担当、編集部門の東陽クリエイティブセンター（FCC）を兼任しました。ヤクルトカレンダーの売上金、額面4千万円は「手形」回収で現金以外の価値観が解らない私は、ポケットに入れたまま、担当者と飲み歩き、起きたのが昼ごろで、会社から捜査願いが出されてしまいました。

その後、オリエントリース（現オリックス）が、商業施設運営を展開するための人材募集があり、応募の結果採用されました。ヤクルト他の売上金手形回収の件もあり、金利・小切手・手形等金融商品・金融流通が疎かった私ですが、やっと目覚めた覚えがします。

東京・大阪・海外事業部へ異動し、新設の建設課を担当、オリックスへの社名変更に伴うコーポレートアイデンティティ（CI）を担当させて頂きました。

以上、自慢げに思われるかもしれませんが、その背景には、常に素朴な田舎出ながら負けてたまるか！がんばっぺ！の意地がありました。

苦があり、谷があり、そして楽しさに溢れる体験を積み重ねて頂いた方々に感謝申し上げます。

また、安達高校の真弓と二本松藩・戒銘石のおかげだと感謝しております。

写真は、死海の塩を始めて日本に導入した事により、イスラエル・メディカルリサーチセンター（厚生省）の責任者と記念撮影。



念願の「ホノルルマラソン」に参加

大内 正造（昭48卒）

●マラソンとの出会い

安達高校に入学して、全校マラソン大会というのがあるのを初めて知りました。1年生の時は柔道部に所属しておりました。最初の校内マラソンでは、全校で17位、2年目は7位、最後の3年目は3位以内に入ろうと頑張りましたが、4位でした。とても悔しかった思い出があります。

それが、私とマラソンとの出会いでした。

その後、富士銀行（現、みずほ銀行）に就職して何ヶ店か転勤をして、東青梅支店という支店に転勤した時、当時の支店長から、行員は全員地元の人たちとの融和のため青梅マラソンに参加するように言われました。

青梅マラソンは、毎年2月に開催されておりました。

仕事が終わってから、マラソンコースを走る練習が始まりました。

10キロと30キロのエントリーがあり、私は30キロを走りました。

初めて30キロというマラソンを完走することができました。それ以降、東青梅支店に在籍している間、毎年青梅マラソンに参加させていただきました。

その後、函館支店に転勤になりましたが、北海道から青梅マラソンに参加したこともありました。

函館支店に勤務している間は、毎朝、五稜郭公園の周りを一

周したりと、ジョギングをやっていました。

ただ、冬の北海道は、雪で道路がとんでもこぼこして走りづらいので、どうしても冬の間は、ジョギングは出来ず苦労しました。

そして、東京に転勤で戻ってくると、当時東青梅支店長だった人から、マラソンは続いているかとの話がありました。

その支店長は、毎月1回はマラソン大会に出ているとの話をされ、とても驚きました。

それを聞いてから、毎月とはいかずとも、年に何回かマラソン大会に参加しようと思いい、各地のマラソン大会に参加するようになりました。

いずれの大会も10キロでした。

●東京マラソンで初めてのフルマラソン

その後、東京マラソン大会という大会が開催されることになり、応募したら当選してしまいました。

当然、10キロでした。

その後、何年かして東京マラソンは、フルマラソン（42.195キロ）しか参加エントリーがなくなっていました。

そこで、致し方なくフルマラソンに応募したら、当選してしまいました。

今まで、10キロマラソン中心に大会に参加してきておりましたが、フルマラソンは初めてであり、どうしよと悩みましたが、折角当選したのだから走ろうと思いました。

これが、初めてのフルマラソンでした。4時間30分ちよつとで完走することができました。

その後、東京マラソンは、応募するも、毎回落選でした。そうした中、「ホノルルマラソン」というマラソン大会があり、それは、申込みをすればだれでも参加できるということを知りました。

偶々、浜松町支店という支店に転勤した時、部下の女性の行員が、毎年ホノルルマラソンに参加しているという話がありました。

その女性行員に、私もマラソンをやっているという話をしたら、是非一緒にホノルルマラソンを走りましょうということになりました。

その女子行員は、毎年、お姉さんと一緒に参加しているという事でした。

私は当時、富士銀行の陸上部に所属しており、陸上部の後輩で、毎年、ホノルルマラソンに参加しており、10年目になるという人がおりました。

その人から、一緒に連れて行ってあげても良いという話がありました。

そこで、JALのホノルルマラソンツアーというのがあるので、それで行きましょうということになりました。

●念願のホノルルマラソン

JALのホノルルマラソンツアーは、至れり尽くせりといったツアーでした。事前に、コースの下見をしたり、夕陽を見ながら、ハワイの海辺をランニングしたりすることができました。

大会当日は、朝3時ぐらいに起床して準備をしてスタート地

点に向かいました。外は真っ暗で、とても寒くハワイにいるという気分ではありませんでした。

スタート時は、外は真っ暗でした。アラモアナショッピングセンターの前を走って行きましたが、真っ暗で昼の賑わいはどこに行っただのかという感じでした。

走っているうちにだんだんと明るくなってきて、太陽が出てきました。すると気温もだんだんと上がってきて、今度は暑くなってきて、走るのが辛くなってきました。

20キロほど走ったところで、どんどん折り返してくるランナーに出会いました。すると、突然私の方に駆け寄ってくるランナーがいました。「副支店長がんばってー」という声が聞こえてきました。なんと、一緒に走りましょうと言ってくれた職場の女性行員でした。

それから、俄然力が湧いてきて、何とか完走することができました。

ゴールにつくとその子はすでに完走しており、ゴールで待つていてくれました。

いい思い出のホノルルマラソンになりました。

もう一度、ホノルルマラソンを走りたいと思っています。



よみがえった浪曲 語り芸のパワー

神野 栄子（本名・七森 栄子 昭和38卒）

（文中敬称略）

●若者にも浪曲ファン広がる

東京・浅草―。大正・昭和期には大衆演芸で隆盛した街だ。この浅草で約半世紀にわたり、浪曲の灯をともし続ける定席「木馬亭」が今、若手浪曲師の活躍で活気づいている。

浪曲（浪花節）は、三味線の伴奏で節（歌）と啖呵（語り）で「泣き」や「笑い」を交えて物語を紡いでいく大衆芸能。娯楽がなかった戦前戦後、ラジオから流れる二代目広沢虎造の名調子「森の石松」には心が躍ったものだ。

子供のころ、旅廻りの浪曲師に座敷を開放し、地域の人たちを招いて浪曲会が開かれたことを思い出す。二本松の提灯まつりや村祭りでも寺の境内に草芝居の舞台が掛かり、片田舎にも華やかに大衆芸能が息吹いていた。

時代は変わり、テレビなどメディアの隆盛で浪曲や講演といった話芸は衰退の一途をたどった。

2000年代に入り、国本武春が革新的な「ロックンロール浪曲」でスターダムに乗った。浪曲界に風穴を開けるも、武春は55歳（2015年没）の若さで死去。そこで奮起したのが武春に刺激を受けた後輩たち。独創的な芸を編み出す一方、落語家や能楽師らと共演もした。結果、若いファンがついてきた。

●奈々福「刀剣歌謡浪曲」で歌手デビュー

その立役者が故二代目玉川福太郎一門の玉川奈々福と弟弟子の玉川太福（だいふく）である。

姉弟で玉川のお家芸である「天保水滸伝」を継承する。利根川の川風袂（たもと）に入れて、月に掉さす高瀬舟争を名調子に乗せて描く。笹川一家の用心棒は、千葉道場・北辰一刀流の剣客、平手造酒（ひらてみき）と役者が揃う。

奈々福は今年2月に東京・銀座の観世能楽堂で2日連続浪曲公演を巧みなプロデュース力で成功させた。6月には平手造酒の名刀を主人公に「刀剣歌謡浪曲」舞いよ舞え」でコロムビアからメジャーデビュー、歌手として打って出た。

太福は、亡き桂歌丸が長年会長を務めた落語芸術協会の準会員になり、3月から新宿末広亭に出演している。

太福は「寄席に浪曲という彩りを必要とされ、うれしい」と喜ぶ。



左より、玉川奈々福、筆者、玉川太福（木馬亭）

● 漫画誌の編集者、今も現役の演芸記者

浪曲は、大人の子守歌、とも言われる。「なぜ今、話芸なの？」とよく問われるが、一口で言えば「スカツとする快感」だろう。

私は安達高校卒業後（妹弟4人も達高卒、次妹は本町・竹内生花店に嫁ぐ）、新設された東洋大短期大学部に入學した。

高校時代からものを書くことが好きで文芸部に籍を置いていた。短大でも国語科を選び、部活も文研（文学研究会）。同人誌で仲間たちと青臭い文学論を闘わしていた。短大から文学部国文科に編入、1967年に卒業。青年漫画誌を発行する小さな出版社に入った。今や大御所と言われる漫画家たちが持ち込み原稿をしていた時代である。この年は劇画雑誌が相次いで創刊され、劇画ブームが到来。「漫画は活字を超えた」と意気込んだ時代に、出産で約8年勤めた出版社を退社。フリーランスというトレンドに乗って婦人誌のライターや単行本を手掛け、走り回った。

取材した女性社長から、『東京中日スポーツ』の新紙面を受注した編集プロダクションが書ける人を探している、あなたやってくれない？。86年、編プロ兼エージェントに入り週3面、仲間と請け負った紙面作りに励んだ。世はバブル突入、制作会社、編プロ全盛で企業メセナも活発なよき時代だった。

東京新聞（中日新聞東京本社）は、前身の都（みやこ）新聞時代から芸能面に力を入れていた。その特色は伝統芸能雑誌「名流」の発行で継承された。数年後、本紙に移

行して見開きで掲載されるようになり、現在に至っている。

歌舞伎から能狂言、邦楽から日本舞踊、落語・講談・浪曲、太神楽曲芸などの色物まで情報を網羅する他に類を見ない新聞である。外部記者で30年余、伝統芸能に携わり実演家や公演などを取材してきた。8年前から霞ヶ関の東京本社に出向し、齢も忘れて若手社員と丁々発止で演芸などを担当。よく金曜と日曜特集に「神野栄子」の筆名でトップ記事を書いている。

インターネット主流の時代だが、それでも紙媒体の信頼は厚い。

● 3・11後 未来のふるさとにどきんと

東日本大震災から丸8年。毎年3月には伝統芸能面でも特集を組み、さまざまな切り口で取材活動を展開してきた。数年前、浪江町出身の民謡歌手・原田直之をインタビューした。

『「新相馬節」は東京に出稼ぎに来たお父さんが故郷に思いを馳せて歌っていた。震災後は帰りたくても帰れない、望郷の念の中身が変わってしまった』と嘆いたものだ。

この取材で芸能や祭りは人を呼び、人をつなぐ力があることを知った。

いわき市出身の女性講師・神田香織は、中沢啓治の漫画「はだしのゲン」を講談化するなど、社会派講師で知られている。震災後はNPO法人「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」を立ち上げ、避難生活で苦しむ人々に寄り添う。講談「ふくしまの祈りーある母子避難の声ーは活動の中から生まれた。各地で口演し、フクシマの現状を訴

えている。

私は彼女に「二本松少年隊」大壇口の「戦い」の悲劇を講談化し、脚本を提供した。戊辰戦争で二本松城が落城した150余年前の7月29日。毎年命日に「二本松少年隊顕彰祭」(二本松少年隊顕彰会主催)を開催している。不屈の精神で戦い抜いた健気な少年たちの悲劇…。3・11と重ね合わせながら、私ができることでふるさとの復興を願う。



講演師 神田香織

〈特記〉

安達高校で1968年から12年間、音楽で教鞭を執られた懸田弘訓(ひろのり)先生(82歳、二本松市在住)が、6月に「NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会」の理事長に就任した。震災後、民俗芸能学会福島調査団の団長を務めるなど、民俗芸能の復興に尽力されている。

お知らせとご依頼

母校福島県立安達高等学校は、2023年4月16日に創立100周年を迎えます。

安達高等学校同窓会は、令和元年度の総会において、創立100周年記念事業として母校の教育環境整備事業のための募金活動(目標金額1500万円以上)を行うこと、を決議致しました。

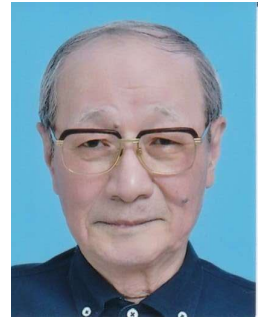
今後、実行委員会を設置し、卒業生の方々に募金活動を展開して参りますので、東京まゆみ会会員の皆様におかれましては、趣旨にご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

安達高等学校同窓会 会長 阿部 重一



まゆみの若木



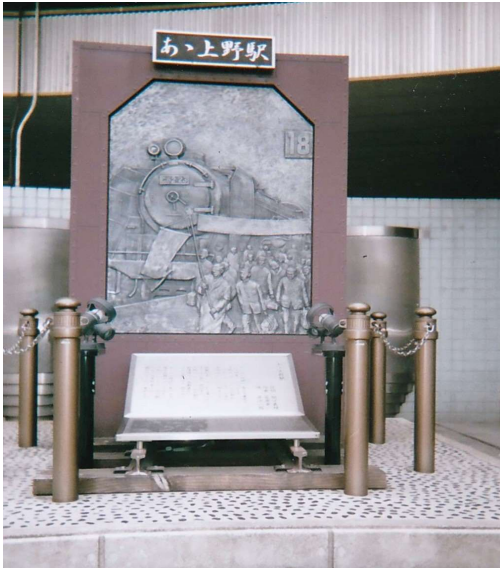
60年をふりかえって

澤井 信明 (昭34卒)

正門横のまゆみの木に見送られ、蒸気機関車が引く各駅停車の上野行に乗ってふるさとをあとにして、60年がたってしまった。

上京した初めのころは、4年後はふるさとの近くの会社にも勤めてなどと淡い期待をもって過ごしていたが、多くの人々に出会い、また新しい文化にふれあっている内に10年がたち、その後大阪17年、宮城に3年、また東京にまいもどり30年と、丁度60年になる。

その間、世の中は日に日に進展し、近年はその進化についてゆくのがやっという状況である。だが多くの友人、知人にめぐり会えたことで、定年後も退屈することなく毎日を過ごせている。



「あゝ上野駅」歌碑

この進展をみてみると、政治、経済はともかくとして、自然界の不思議を解き明かす科学技術の進歩に感心している。まず宇宙空間では、電子計算機の小型化により宇宙船があり、CCDカメラの発明、発展により超銀河を可視化し、宇宙地図まで画かれるようになった。また最近では、電波望遠鏡の地球規模での組み合わせにより、ブラックホールの可視化にまで達した。

また深海においては、有人調査潜水船や無人探査機が開発され、水深6,000m以上で潜航し、熱水中に甲殻類の生物が多数生息している映像が写し出されている。この深海はまだ未知の世界で、地球の始まり、そこに発生するガスや海底資源、生命の起源などの幅広い事実が解明されようとしている。

更に地上においては、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を使って、多くの再生医療が行うことが出来るようになり、これまで歯が立たなかった「けが」の根本的な治療を見据えるところまで来たという報道におどろいている。

話とはぶが、安達太良山に流れる烏川の上流にプラナリアという再生生物が生息しているのを採取して、生態観察したのをおい出す。当時は「不思議だなあ」で留まっていたのだが、今や高等動物の人間の部分再生が可という時代が来たんだという思いである。

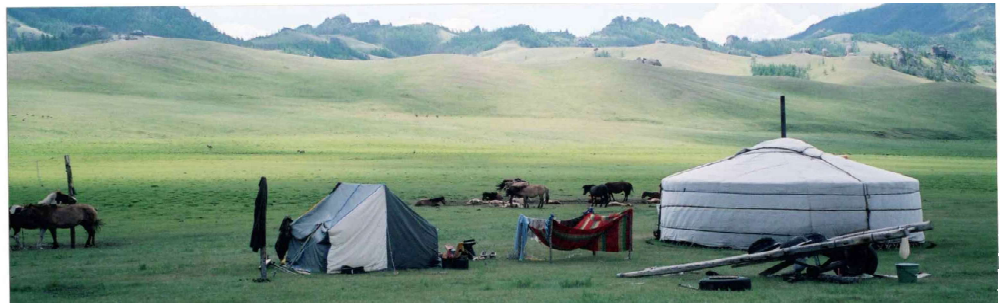
この先の変化がどう進んでゆくのか、またどんな商品が開発されるのか、毎日テレビを楽しんでいたら、某電機メーカーの経営者は、「日本人の客が言うことを聴いて商品化したら海外ではまったく売れなかった。」と言い、また海外ITメーカーの経営者は「次期商品は『リベラルアート』である。」という報道があった。

ややもすると、日本の基礎技術が後れを取っているのでは、という話しも出ているが、近年新しい半導体が出来たという話題もあり、更なる技術発展に期待している。

次に、まゆみの健児との思い出に残る出来事の一つに、故堺屋太一氏の主催する『モンゴル建国800年祭』のツアーにクラスメート4人で参加した折、広大なモンゴル草原の中に臨時に建てられたパオの横で、満点の星のもと400Km上空の宇宙ステーションが移動してゆく姿を肉眼で見られたことである。何ともいえぬ感動をしたものである。

もう一つは、久しぶりに「クラス会をするから出席せよ」と地元の級友に誘われ、彼の屋敷の2階の座敷で、サツキの盆栽ごしに見た安達太良が、何とも雄大な山であると再認識した。小学生の時から何度となく登っていたが、何時も下を向いていて、上を見ていなかったことが判った。心境、環境に大きく左右されることを教えられた。

この後、不思議がどのような技術で解明されてゆくか楽しみであるが、個人的にはこれまで同様「畏敬共生」のもと、残された時間を大事にしてゆきたい。



モンゴルの大草原の中で

東京まゆみ会 令和元年度総会のお知らせ

令和元年度「東京まゆみ会」総会のご案内を致します。

【日時】 10月12日(土) 11時～14時、受付開始 10時30分

【場所】 レストラン「クルーズクルーズ・ザ・銀座」

銀座4丁目交差点そば、銀座コアビル7階

【総会参加費】 8,000円

【アトラクション】 ピアノ演奏会

演奏者 田中望氏 (演奏者プロフィール参照)

【懇親会】 懇親会では楽しいゲームを計画しております。

お誘い合つてご参加ください。

【演奏会プロフィール】

田中望 (たなか のぞむ) 昭和55年生まれ。

武蔵野音楽大学卒業。

在学中より、国内のオーディションに合格、コンクール入賞。



卒業時、学内選抜演奏会、ヤマハ楽器新人演奏会、皇居内桃華楽堂での新人演奏会などのコンサートに出演。ポーランド・シヨパン音楽アカデミー研究科修了。

現在各地でリサイタルを行い活躍中。バッハ、スカルラッティ、シヨパン、リスト、グレッツキまで、広いレパー

トリーを持つ。

(安達高校昭和42年卒田中行子様ご子息)

現在の役員体制 (令和元年7月現在) 卒年順

- 【顧問】 安齋 隆 (昭34)
 - 【会長】 安藤 勇夫 (昭34)
 - 【副会長】 高橋 智章 (昭41) 阿部伊勢吉(昭45)
佐藤富美夫(昭45) 平子 杉代 (昭49)
 - 【事務局長】 (兼) 高橋 智章 (昭41)
 - 【会計】 渡辺 弘次 (昭45)
 - 【会計監査】 渡邊 浩司 (昭34)
 - 【常任幹事】 山本 紀夫 (昭34) 早川 ミツ (昭37)
諸根 靖忠 (昭29) 大島 庸世 (昭32)
 - 【幹事】 紺野 英男 (昭32) 常住美智子(昭42)
大内 正造 (昭48) 菅野 孝三 (昭50)
百川 教彦 (昭50) 菅野 育夫 (昭51)
山田由美子(昭51)
- 以上

「東京まゆみ会」から新会員のご紹介のお願い

会員の皆様、新会員のご紹介と「総会」への出席のお誘いを宜しくお願い致します。

総会にご出席頂きました場合、安達高校今春卒の方は総会参加費・年会費とも免除、また、今回新加入で総会初参加の方は、年会費を免除とさせて頂きます。

なお、総会では、受付に会報を数十部用意致しますので、東京まゆみ会のご紹介にご活用頂ければ有難く存じます。

編集後記

平成元年に創刊された「東京まゆみ会会報」は、ご寄稿者、編集担当役員の皆様のお陰を持ちまして、30年間休刊することなく発行され、今年、新しい元号を迎えました。

会報第31号、即ち「会報令和元年号」は、幅広い卒年層の皆様から、趣味の世界やお仕事関連のお話、そして、高校時代のエピソードなど、多様なご寄稿を頂き、バラエティーに富んだ誌面を構成することが出来ました。

また、綺麗な写真を沢山ご提供いただきましたので、写真も楽しめる誌面となるよう努めました。

編集を終えて思いますに、パソコン、スキャナー、デジカメは、素人編集者にとっての「三種の神器」です。

東京まゆみ会会長 安藤勇夫

東京まゆみ会会報 第31号

発行人 東京まゆみ会 会長 安藤 勇夫

〒192-0914

東京都八王子市片倉町1357-190

電話・FAX 042-636-5061

印刷所 モリモト印刷株式会社

〒162-0813

東京都新宿区東五軒町3-19

電話 03-3268-6301(代)